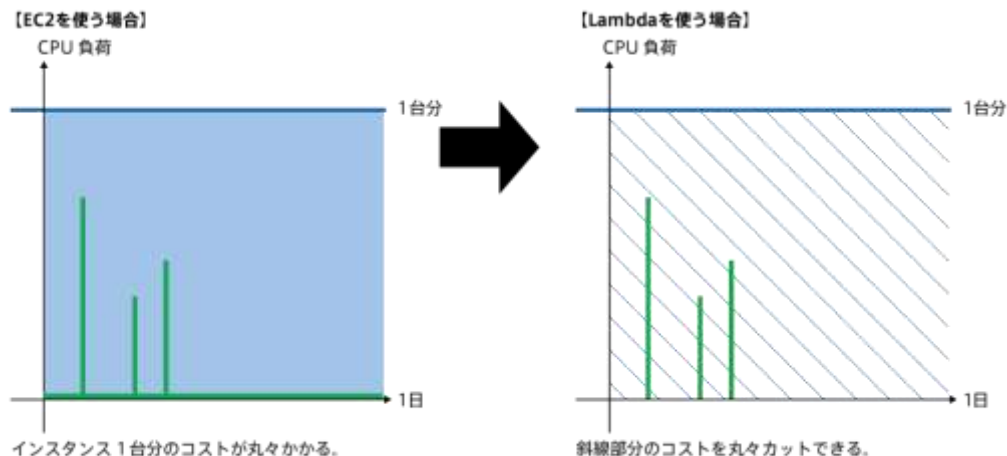


**AWS 認定プレミアコンサルティングパートナーの cloudpack**  
**AWS クラウドでサーバーレス運用を実現する**  
**『AWS Lambda』を活用するためのホワイトペーパーを公開**  
**～サーバーを必要としない環境でコスト削減やセキュリティ向上を実現～**

アマゾン ウェブ サービス（以下、AWS）を基盤とした 24 時間 365 日のフルマネージドサービスを提供する cloudpack（運営：アイレット株式会社、本社：東京都港区、代表取締役：齋藤将平）は、サーバーを必要としないイベント駆動型のプログラム実行環境である AWS Lambda（ラムダ）を活用するための開発手法を記した『cloudpack サーバーレス開発ホワイトペーパー』を cloudpack ホームページにて公開しました。

従来のシステムでは、プログラムを動かすためのサーバーが必要でした。AWS の仮想サーバーである Amazon Elastic Compute Cloud（以下、Amazon EC2）を利用する場合においても 1 時間単位の課金が発生することや、待機時間が発生するシステムでは Amazon EC2 を稼働し続ける必要がありました。一方、AWS Lambda はイベント駆動型のプログラム実行環境で、サーバーなしにプログラムを実行することができるため、サーバーコスト（Amazon EC2 利用料金）を削減できることはもちろん、運用や保守コストの削減、システム工数を減らす効果もあります。また、プログラムを実行した実時間（100 ミリ秒単位）と回数に対して課金される仕組みとなっているため、待機が多いシステムや負荷に緩急があるシステムでは AWS Lambda に移行することで、90%以上もコスト削減をすることが可能です。

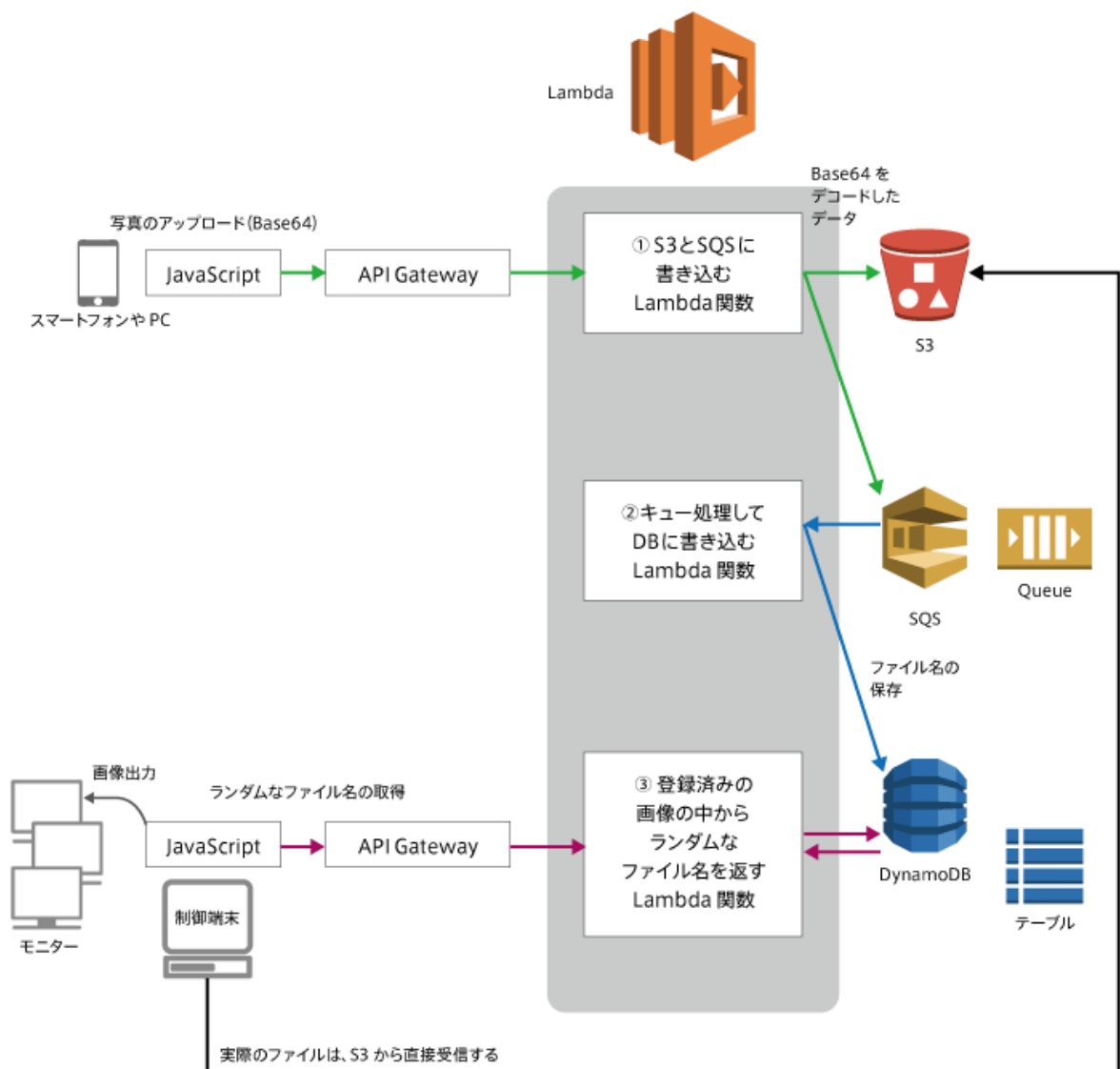


cloudpack では、AWS Lambda の登場をクラウド業界の大きなターニングポイントと捉えており、今後のシステム運用を大きく変えていくコンピューティングサービスであると考え、本ホワイトペーパーを制作・公開することになりました。

本ホワイトペーパーでは、より多くの方々に AWS Lambda について理解していただくことを目的として、AWS Lambda のサービスのな位置付け、特長と仕組み、利用方法、cloudpack が手がけた AWS Lambda の導入事例などを掲載しています。

**【cloudpack サーバーレス開発ホワイトペーパーの主な内容】**

- ・ AWS Lambda の特長と仕組み
- ・ AWS Lambda を活用した構築手法
- ・ AWS Lambda と連携する AWS サービスの概要
- ・ 実例に基づく AWS Lambda の利用手順
- ・ cloudpack が手がけた AWS Lambda 導入事例（2 案件）



**事例 1 : AWS Lambda と Amazon S3、Amazon DynamoDB、Amazon SQS を利用し、  
エンドユーザーが投稿した写真をデータベース化し、ランダムに選択してモニタに表示するシステムの構成例**

◎ 「cloudpack サーバーレス開発ホワイトペーパー」 公開 URL

<https://cloudpack.jp/whitepaper/serverless.html>

**【cloudpack について】**

cloudpack は、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) や Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) をはじめとする AWS の各種プロダクトを利用する際の、導入・設計から運用保守を含んだフルマネージドのサービスを提供し、バックアップや 24 時間 365 日の監視/障害対応、技術的な問い合わせに対するサポートなどを行っております。2013 年 6 月 4 日には、AWS パートナーネットワーク (APN) <sup>(※1)</sup> において、日本初の APN プレミア コンサルティングパートナーの一社として認定されたのをはじめ、その後 4 年連続で認定されています <sup>(※2)</sup>。

運営会名：アイレット株式会社 <http://www.iret.co.jp/>

所在地：東京都港区虎ノ門 1 丁目 23-1 虎ノ門ヒルズ森タワー7 階

資本金：7,000 万円

事業内容：クラウド導入事業、モバイルアプリケーション開発事業、システム開発・保守事業、  
サーバーハウジング・ホスティング事業

(※1) AWS パートナーネットワーク (APN) とは、AWS のエコシステムを支える重要な独立系ソフトウェアベンダー (ISV)、SaaS ベンダー、PaaS ベンダー、開発者用ツールベンダー、管理/セキュリティベンダーやシステムインテグレーター (SI)、戦略コンサルタント、リセラー、代理店、VAR によって構成されております。

(※2) 日本初の 4 年連続での認定は、日本企業ではアイレット株式会社と株式会社野村総合研究所のみです。

Amazon Web Services、アマゾン ウェブ サービス、AWS、Amazon EC2、Amazon S3、Amazon DynamoDB、Amazon SQS、AWS Lambda および Amazon Web Services ロゴは、Amazon.com, Inc. またはその関連会社の商標です。cloudpack、クラウドパックの名称は、アイレット株式会社の登録商標です。